

2020年12月8日

<報道発表資料>

株式会社SUBARU

KDDI株式会社

## SUBARUとKDDI、 通信を活用した安心・安全なクルマづくりのための パートナーシップを構築

～新型レヴォーグを皮切りに、「つながる安全」を提供開始～

株式会社SUBARU（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：中村 知美、以下 SUBARU）と KDDI 株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：高橋 誠、以下 KDDI）は、通信を活用した安心・安全なクルマづくりのためのパートナーシップを構築しました。

新型レヴォーグを皮切りに、SUBARUの最新の安全技術と KDDI の高品質で安定した通信サービスを連携させ、先進事故自動通報（ヘルプネット）や SOS コールなどの「つながる安全」を実現するコネクティッドサービスの展開を推進していきます。

通信を活用したパートナーシップ構築

SUBARU KDDI

つながる安全

両社で「つながる安全」を実現するコネクティッドサービスの展開を推進

2030年に死亡交通事故ゼロ\*を目指す

\*SUBARU乗車中の死亡事故およびSUBARUとの衝突による歩行者・自転車等の死亡事故をゼロに

<連携イメージ>

SUBARUは「人を中心としたクルマづくり」で、すべての人に「安心とゆしさ」を提供することを目指しています。特に安全性能においては、「0次安全」「走行安全」「予防安全」「衝突安全」\*1の4つの分野をさらに強化するとともに、今回実現した「つながる安全」を加え、2030年に死亡交通事故ゼロ\*2を目指します。

KDDIは、車載通信機を搭載した車両の位置情報から、国や地域ごとに選定した通信事業者への自動的な接続と、通信状態の監視を統合的に行う「グローバル通信プラットフォーム」を活用し、高品質で安定した通信回線を提供しています。79の国と地域での「グローバル通信プラットフォーム」によるサービス提供を通して、自動車会社のコネクティッドカーのグローバル展開に貢献しています。

このたび、SUBARUとKDDIのパートナーシップによって実現した「つながる安全」は、クルマとコールセンターが24時間365日つながる先進事故自動通報（ヘルプネット）やSOSコールなどの機能により、万一の事故やトラブルが発生した際の安全の確保や早期救命に貢献するとともに、通信回線を利用したリコール情報のお知らせ機能や故障診断アラートの機能なども提供します。

今回の取り組みにあたり、SUBARUの常務執行役員 国内営業本部長 佐藤 洋一は次のように述べています。

「新型レヴォーグを皮切りに2022年までに日本を含む主要市場において8割以上の新車をコネクティッドカーへ切り替え、中期経営ビジョン(STEP)で目的として掲げている2030年死亡交通事故ゼロの実現を目指します。」

また、KDDIの取締役執行役員専務 ソリューション事業本部長 森 敬一は次のように述べています。「KDDIは『グローバル通信プラットフォーム』の提供を通して、コネクティッドカー領域において世界中のドライバーの安心・安全・快適なカーライフに寄与してきました。SUBARUとのパートナーシップ構築により、『乗る人すべての安心とゆしさ』を目指すSUBARUのコネクティッドサービスの発展に貢献していきます。」

今後両社は、KDDIの「グローバル通信プラットフォーム」を活用したコネクティッド領域でのパートナーシップを深めることでサービスの発展に努めるとともに、乗る人すべてが安心・安全を感じられるクルマづくりを推進していきます。

SUBARU コネクティッドサービス  
<https://www.subaru.jp/levorg/levorg/safety/safety4>

KDDI IoT 世界基盤、グローバル通信プラットフォーム  
<https://www.kddi.com/business/mobile/m2m-solution/iot-worldwide/>

\*1：クルマのカタチや操作系などの基本的な設計を工夫することで、走り出す前からクルマの安全性を高める「0次安全」、走る・曲がる・止まるといった基本的な走行性能を高めることで危険回避を容易にする「走行安全」、安全運転をサポートし、衝突回避や被害軽減を図る「予防安全」、乗員や歩行者を保護するための「衝突安全」

\*2：SUBARU乗車中の死亡事故およびSUBARUとの衝突による歩行者・自転車等の死亡事故をゼロに。